

世界に一つの自分の声を大切に!

●音楽の都ウィーンからの贈り物・緑中出前講座!
11月4日(水)に行われた春日部市立緑中学校での出前講座「ふれあい講演会『ウィーンのまちと音楽』」の記録をご紹介します。この日は、在校生と教職員の皆さん約350名が声楽家・富田千種さんのお話と歌を楽しんでくださり、そして発声法に挑戦も…!

* *

■富田千種さんの略歴

- ★埼玉県立浦和高校卒業。武蔵野音楽大学声楽科卒業。ウィーン国立音楽大学オペラ科、リート科を最優秀で卒業。同リート科マイスターコース終了。
- ★ウィーン国立歌劇場の研究生を経て専属歌手となり、カラヤン、バーンスタイン、ズピンメータ、クライバー等数多くの名指揮者、名歌手、演出家と共演、研鑽を積む。ザルツブルグ音楽祭にてカラヤン指揮ドンカルロ、オシアッハ音楽祭にて、カルミナブラーナに出演。アウグスブルグ市立劇場の第一バリトンとして専属契約。モーツァルト、ワーグナー、ロッシーニ、ヴェルディ等40以上の主役のレパートリーを持つ。
- ★NHKFM リサイタル、皇居にて御前演奏会出演。マリオデルモナココンクール最高位。フーゴヴォルフ国際歌曲コンクール2位。ウィーン在住。

* *

◆最初はナポリ民謡「O sole mio (オーソレミオ)」



皆さん、こんにちは。最初に中学校の音楽の教科書にも載っているナポリ民謡「O sole mio」を一曲。
〔会場に間奏が流れると、皆さんも静かに聴いてくれました。〕

* *

◆好きな音楽に出会って!

静かに聴いてくれてありがとうございます。それでは、私が音楽を始めた訳とウィーンに住んだ訳をお話したいと思います。

皆さんは声楽家という小さい頃からピアノなどを習っていたと思うかも知れませんが、私が音楽を始めたのは高校3年生の時でした。実は中学時代の音楽の成績は5段階で3でした。高校に入っても、選択したのは工芸部でして音楽とは遠くにいました。そんな私が音楽に興味を持ったのは、高校2年生の夏にアルバイトをして買ったギターがきっかけです。

私の高校時代はフォークソングが全盛期でして、アメリカのフォークソンググループでP.P.&M(ピーター、ポール&マリー)というグループが来日した時には全国各地に追っかけをしていました。

ギターを弾いて歌っている間に、歌うことの楽しさを感じるようになり、もっと声を出したい、ずっと音楽をやっていきたいと思うようになりました。

高校3年生になって、もっと歌の勉強をしようと思って音楽の先生について個人レッスンを始め、音大を目指そうと思いました。3年生ですから受験の準備をしなくてはなりません。いろいろな音大の試験要領を取り寄せてみたら、譜面が読めなくてはなりませんし、ピアノもハイレベルなところまで要求されていて難しいのです。私はバイエルがやっとというような状況でした。そこで1年間浪人して大学を目指す事と決めて、母親に浪人して音大を目指すと言ったところ、大反対されました。

親には普通の大学を目指すというようなことも言って予備校に通いながら、家ではピアノの練習をして1年間を過ごしました。

* *

◆音大を出てウィーンへ

それでも音大に入って声楽の道を進んでいったのですが、4年生の時に音楽大学の演奏者たちが集まり大学を代表して皇居で演奏を披露するという機会がありました。今の皇太子様が子どもの頃でした。私は母親を招待しましたが、その時ばかりはたいへん喜んでくれました。

そして4年の就職の時期になるのですが、日本の音楽大学を出た人たちは教師になる人が多いのですが、私も春日部の高校で音楽教師になるということが内定していました。しかし、どうしても海外で、音楽の都ウィーンで勉強してみたいという希望が捨てられず埼玉県の教育委員会に相談したところ、1年間の猶予をいただき海外に行くことができました。

ウィーン着いて最初に行ったのが、ウィーン国立歌劇場です。そこで大きなカルチャーショックを受けました。ウィーンフィルの音色が違うので



です。ウィーンフィルというのは、国立歌劇場の専属オーケストラなのですが、日本で聴いていた音色とは全く次元の違う音だったのです。それから毎日のように国立歌劇場に通いました。

日本ですとオペラを観るのに何万円とかかるのですが、ウィーン国立歌劇場では立ち見席というのがあって300円ほどで観ることができるのです。ですから、たくさんの学生たちが本物のオペラを観て勉強することができるのです。

そうこうしている間に、ウィーン国立音楽大学の試験があり受かることができました。

* *

◆語学はしっかりと勉強してください！

ウィーン国立大学の試験は全てドイツ語です。また、音楽の授業も全てドイツ語で行われます。私は日本の音楽大学の頃からドイツ語の勉強はしっかりとしていましたので、受験も学業にも困ることはありませんでした。皆さんも、将来海外で活躍したいという夢や希望がある人は英語をしっかりと勉強しておいてください。英語ができればドイツ語も難しくはありません。じゃあ何時からやるのか…今でしょう！

なぜ英語かというと、ヨーロッパは総て陸続きなのです。ドイツからフランス、イタリアに行っても陸続きです。ですから多少の違いがあってもみんな英語で話せば言葉を分かってくれます。日本は島国なのでチャンスを掴むには語学力が必要です。世界を目指そうと考えるなら大学からでは遅いのです。中学生の皆さんの時代から語学力を付けてください。

* *

◆ウィーン国立音楽大学を出て

ウィーン国立音楽大学の試験が受かって親に連絡すると、親は大反対でした。特に、日本で音楽教師をやるといふ就職先が決まっていたのを、親戚の人が県教育委員会に働きかけてくれて1年間の留学という我が儘を許してもらっていたので大反対されたのだと思います。

それでも自分の夢を実現したいという一念から、私はアルバイトをしながら4年間大学に通いました。ウィーンの学校は小学校4年、高校8年、大学と全て授業料は無料です。ですから、生活費を稼げば大学生活が送れるので、通訳などの仕事をしながら過ごしました。

ドイツやオーストリアには劇場が130から150くらいあります。人口15万人以上の町には1つのオペラ劇場があると言えます。劇場があるというのは、市民文化会館という箱を持っているのではなく、そこには専属のオペラ歌手、コーラス、演技者、バレリーナ、オーケストラ、大道具や小道具さんとたくさんの職員を抱えているのです。ですから音楽大学というのは、そういった劇場で働ける人材を養成する学校なのです。日本の音大は、芸大もそうですが、明治以降に作られて学校の先生を養成するための学校なのです。そこが日本と外国との大きな違いなのです。

先程、23万人の春日部市の文化予算を伺ったところ数千万円程度と聞きましたが、私が一時期専属契約をしていたドイツ南部のアウクスブルクという人口30万人弱の都市では年間30億円の文化予算として持っています。伝統と文化の違いを感じざるを得ませんね。ここはモーツアルトの父親が生まれた町でもあるのですが、音楽やオペラは自分たちの文化であるという強い誇りを持っているのです。

ウィーン国立劇場は1000億円の予算があり、1/3は入場収入、それ以外は国の予算です。これが伝統と文化なのです。

私は、ウィーン国立音楽大学を出てオーディションを受けてウィーン室内歌劇場の歌手になり、これまでいくつかの劇場と契約してオペラ歌手をやってきました。

実はオペラ歌手という職業は日本には無いのです。ウィーンには6つの劇場があり、一年中公演があります。ウィーン国立歌劇場でもほぼ一年中オペラ公演があり、専属オペラ歌手が出演しますが、日本にはそういった劇場がありません。さらに、オペラ歌手というのは地位も高く、大統領とも親しくなれます。国立歌劇場の職員は全員が国家公務員です。市や町の劇場職員は地方公務員です。ですから、オペラ歌手のオーディションに受かれば安心して仕事に励むことができるシステムになっています。

* *

◆歌の好きな人は声を出して好きな歌を！

さて、皆さんは歌が好きですか。歌が好き、声がいいと思う人は手を挙げて？〔数人〕。では、カラオケに行って歌ったことのある人は？〔ほとんど〕。

歌う喜びは、クラシック、J-POP、演歌などのジャンルを超えて同じです。音楽に差はありません。私がギターを弾いてフォークソングを歌い、もっと声が出たらいいなあ…と思って習いに行ったら、クラシックの発声法が一番、自分の声を出せるということに気づいたので。歌うという発声の基本は、自分の持って生まれたキャパを最大に生かすことなのです。

歌を歌うというのは簡単なことです。歌いたいという気持ちがあれば歌えます。ですから人前で、自分の好きな歌を歌ってください。ただ、男性の皆さんは変声期がありますから、その間だけは声が出ないというので失望してしまうかも知れませんが、変声期が過ぎれば違った音域の声が出ます。

* *

◆私のまち・ウィーン

それではここでスライドを用意しましたので、ウィーンのまちを紹介します。ウィーンは人口170万人の都市です。オーストリア全体でも人口は800万人くらいです。しかし、中世にはハプスブルク家が一大勢力を持ち、オーストリア帝国を築き、ハンガリー、チェコ、ポーランドの一部なども含めた大きな国でした。

そんなウィーンが音楽の都と呼ばれるようになったのは、モーツアルトであり、ベートーヴェン、シューベルトなど多くの作曲家の存在です。

〔富田さんが撮影してくださったウィーンのまちなぎのスライドは、次の号でご紹介したいと思います。〕

* *

◆腹式呼吸による発声法を



〔生徒会長の赤沼君に呼吸法の指導〕



よう。息を吐いて、そう横隔膜が引っ込むんですね。みんなできますか？

さあ、皆さんが歌を上手に歌えるように発声法をお教えしたいと思います。全員立ってください。背筋を伸ばして良い姿勢をとってください。歌を歌うときは、足は少しだけ前後に開いてください。猫背にならないようにして、息を吐いて、次に息を吸ってください。

さあ、皆さんは息を吐くときにお腹が動きますか？

呼吸法には二つあり、一つが胸式呼吸で、もう一つが複式呼吸です。私のお腹を見ていてください。息を吐くと「ハッ!」。お腹が凹みますよね。これが腹式呼吸です。横隔膜を引っ込めると強く息を吐くことができます。

それでは生徒会長の赤沼君に壇上に来てもらいま

前列の皆さんを確認してみましょう。「OK! ●●君は来ていますね」「これはダメ!」……。

それでは先生にも、武藤先生に代表してやっていただきます。そうですね。大切なのはお腹を引っ込めることで横隔膜が動き、肺という空気を入れる袋を萎ませたり、広げてやることなのです。早く強く息を吐いたら、今度はゆっくりと声を出しながら息を吐いてみましょう。これが発声の第一歩です。

こうした動作が基礎となって声が出るようになります。皆さんの声は世界に一つしかありません。そんな世界に一つの自分だけの声を大切にしてください。声帯の修理はききません。変声期の皆さんは無理に声を出さないでください。人間はしゃべることができれば声が出ます。声が出れば歌うことができます。歌うことが好きならば上手に歌うこともできるのです。皆さん一人ひとりに呼吸法をお教えしたいのですが、時間がありません。また、こうした機会をいただければ幸いです。最後に「Santa Lucia (サンタルチア)」をイタリア語で。

* *

◆お礼の言葉

最後に生徒会長の赤沼君からの謝辞が……。

「本日はお忙しい中、私たちの緑中生のためにウィーンからお越しいただきありがとうございました。今回の講演会では、富田さんが日本を離れてウィーンで本物の音楽を学ぶという生き方に感動しました。また、ウィーンが音楽の都と呼ばれた理由も初めて知り、もっと音楽について深く知りたいと思いました。僕も吹奏楽部の一員として音楽に関わっていますが、初めてオペラ歌手の方にお目にかかれ、とても良い刺激になりました。呼吸法も部活で生かしたいと思います。本日はありがとうございました。」

約1時間のご講演、みんなの心には…? **感謝!**



〔私まで花束をいただきました〕



〔講演会を終えて富田さんと生徒会長の赤沼君、校長室にて〕